

専徳寺報

第492号

令和8年1月12日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

ついでに礼拝

〔月のはじまりはお寺から〕

午前9時より45分間。

正信偈和讃・法話。どなたでもお参りできます。

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

岩国 専徳寺

検索

	29日(木)	28日(水)	27日(火)
10時	朝座④		
12時		お斎 (11時半～13時)	
13時半		昼座②	昼座①
15時半			
19時半		夜座③	
21時			

29日(木)

朝10時～12時

※夜の帳場はなし

28日(水)

昼1時半～3時半
夜7時半～9時

1月27日(火)

昼1時半～3時半

日時



「諸行無常の響きあり」(平家物語)
激動の一年が始まりました。
先の見えない私たちに、「南無阿弥陀仏」は静かに真実の救いをつけてくださいます。
今年も一緒に阿弥陀さまのみ教えを聞法いたしましょう。
今まで法座に参れなかった方は、今年こそ始めましょう(短時間でも結構です。耳が悪い方は事前にご相談ください)。
報恩講はご開山親鸞聖人のご遺徳をしのぶ最も大切な行事です。万障くりあわせてどうぞお参りください。

御案内

御正忌報恩講法要

ごしょうきほうおんこうほうよう

ご講師

27日・28日昼 本願寺布教使

深野純一師(下関市)

28日夜：住職

29日朝：前住職Ⅱ「領解文」に学ぶ

内容

◆1 お斎接待

1月27日(火) 11時半～13時

28日(水) 11時半～13時

※お斎料はありません。地区割りもありません。

初日も二日目も、お聴聞の前、ご一緒にお斎をいただきます。

◆2 御伝鈔拝読：28日昼座と夜座

親鸞聖人のご生涯を曾孫の覚如上人が書きつづられた『御伝鈔』を拝読します。

◆3 大連夜と万灯会 28日夜座

聖人のご臨終を偲ぶ厳肅な法座です。

◆4 29日はお餅のお下がりがあります。

◆5 仏具回収Ⅱご家庭でご不用となった仏具(お念珠、仏壇の荘厳具等)を回収いたします。

◆6 「2026年直柱カレンダーⅡ」ご自由におとりください。

※ご門徒の方でカレンダーがまだ届いていない方はお知らせください。

◆7 聖典、聴聞カードもお忘れ無く。



ご自由に観覧ください。

【法句】(282) 人は去ってもその人の言葉は去らない。人は去っても拝む手の中に帰ってくる (中西智海)

◆9『歎異抄』関連書籍紹介

『歎異抄』関連の本はたくさんあります。法座にて紹介します。貸し出しもいたします。



★「そもそも『歎異抄』って何ですか？」というあなたへ
(『これならわかる歎異抄』より)

第1回 往生極楽のみちがとかれた書

安方哲爾



『歎異抄』とは

親鸞聖人のお言葉が書かれたもので、我々が一番手にとって読みやすいものは『歎異抄』でしょう。一般の書店に行ってもすぐ購入できます。また、真宗の僧侶以外の方が親鸞聖人のことについて語られるとき、一番参考になれるのも、『歎異抄』でありましょう。それは、文章が簡潔であり、名文であるからです。

ただ、真宗の僧侶・門徒の仰いでいる親鸞聖人像とそれ以外の方、作家の先生、歴史の先生の見ておられる親鸞聖人像はかなり違うものでしょう。

作家の先生、歴史の先生は鎌倉時代に活躍された一人の僧侶・親鸞という方の生き方を問題にされておられます。そのことはとても

尊いことで、僧侶も学ぶことはたくさんあります。

しかし真宗の僧侶は、親鸞聖人のことを歴史上の一僧侶とは見ていません。この私にお浄土参りを勧めてくださった仏さまのお遣い、浄土真宗をお開きくださった御開山さまと仰いでいるのです。

この書の第一条には、
弥陀の誓願不思議にたすけられまゐらせて、
往生をばとぐるなり

とあり、第二条には、

往生極楽のみちを問ひきかんがため

と出てきます。まさに『歎異抄』は「往生極楽のみち」がとかれた書です。

『歎異抄』は、親鸞聖人が直接筆を持って書かれたものではありません。親鸞聖人のお弟子が、聖人がご往生になられた後、しばらく経ってから書かれたものです。『歎異抄』自身には著者の名はありませんが、この書の第九条と十三条に、聖人と対話しているお弟子の名が「唯円房」とありますから、

この書は、河和田の唯円房の書かれたものであらうと言われている。



この書は聖人滅後、関東の門弟の間で故聖人のおっしゃった事に背く別の考えが生じてきたことを嘆き、聖人から直接教えをうけた著者が、同じお念仏の道を歩む行者の不審をとりのぞくために著されたものであります。序文に、

「親鸞聖人がおいでになったところと今とをくらべてみますと、このごろは聖人から直接お聞きした真実の信心とは異なることが説かれていて、なげかわしいことです。(中略)そこで、今は亡き親鸞聖人がお聞かせくださったお言葉のうち、耳の底に残って忘れないものを、少しばかり書き記すことにします」(現代語訳)

とあります。ですから『歎異抄』は、前半が親鸞聖人のお言葉、後半はこの書が書かれた当時言われていた異なった考え、となります。

親鸞聖人の願い

では、なぜそのような別の考えが出てくるのでしょうか。それは浄土真宗のお法が、社会通念の善悪観とは異なっているからです。『観無量寿経』には、「親を殺したような罪深きものでも、死に際の十声のお念仏で阿弥陀さまの清らかな国、お浄土へ参れる」とあります。

これは、我々の常識とは違います。我々は、「人を殺したものは地獄に墜ちる」と言う方

がわかりやすいです。それは我々が、「頑張ったものは褒美があるが、罪を犯したものは罰がある」というルールの中で生きているからです。

ですから、異なった考えをする人は、この世間の常識の中で浄土真宗を考えます。しかし、人間の努力をいくら積み重ねても、仏さまのお浄土に参ることはできないのです。

では、どうして浄土真宗では、罪人でもお浄土に生まれていくことができるのでしょうか。それは、「罪人であってもお浄土に迎え取る」と言われる阿弥陀さまのお働き(力)があるからです。浄土真宗とは阿弥陀さまの「仏力・他力」を聞く宗教です。

これは、まことに難しいことです。ですから、『阿弥陀経』には、「世間難信の法」(赤本105頁・朱本120頁)という言葉が出てきます。人間の常識的な考えでこの法を聞くならば、信じることは難しい。いつの時代もそうですが、浄土真宗のお法は、やはり確かな師匠・指導者がいなければ、誤った方向に進んでしまします。

この書の序文に、

まったく自見の覚悟をもって、他力の宗旨を乱ることなかれ

(現代語訳「決して、自分勝手な考えにとらわれて、本願他力の教えのかなめを思い誤ることがあつてはなりません。」)

とありますが、この「自見の覚悟」(自分勝手な考え)こそが世間の常識なのです。だから難しい。我々がふだん大事にしている

世間の常識で浄土真宗を考えると、必ず間違ってしまう。

ではどうするのか。この「難信の法」を、ただお聞かせに預かるのみです。如来さまが、「われ、南無阿弥陀仏の名の仏となって、ひとりひとりの中に入り満ちる。入り満ちて、その口から南無阿弥陀仏とこぼれ出る」とおっしゃって下さった、世間の常識ではない如来さまのお喚び声「南無阿弥陀仏」をお聞かせに預かると、今まで全く考えもしなかったものの考え方が、私のうちに具わっていく——それが仏法聴聞です。今まで煩惱で凝り固まっていた私の心の中に風穴が空いていく、それがお育てに預かると言うことです。

「歎異(異なることを歎く)」とは、他者を貶めるではありません。同じ親鸞聖人を師とおおき、同じく阿弥陀さまのお浄土に往生することを願うものが、「自見の覚悟」(世間の常識・自分勝手な考え)をもって浄土真宗を理解しようとする。その人々に対して、深い悲しみをもって、「どうか、本当の信心に立ち返ってくれよ」との願いから書かれています。この書の終わりには、

信心異なることなからんために、なくなく筆を染めてこれをする。

とあります。親鸞聖人のお言葉をお聞かせに預かり、わが身を往生浄土する身に定めていただく、そのことを大事にこの『歎異抄』を拝読していきたく思います。

(おわり)

※一部住職書式を変更。

専徳寺伝道掲示板50年の歴史



専徳寺の伝道掲示板は昨年12月で半世紀を迎えました。掲示した言葉の数は1,000以上あります(偶然、専徳寺HP愛読者の中須賀裕文さんの依頼で気づきました。中須賀さん、ありがとうございます!)

前住職が親鸞聖人ご誕生800年を縁に始めました。

このたびの法座で北余間にそのすべてを公開したいと思います。

★アンケート参加募集

公開を記念して、「輝け! 専徳寺の掲示板大賞(一月部門)」を開きます。

【参加方法】

- 法座にお参りくださった方に「一月の掲示板の言葉」とアンケート用紙をお渡しします。好きな言葉を三つ選んでください。
- 参加くださった方の中で、抽選で5名の方に「お米」をプレゼントします
- 抽選会は御満座の後に行います。
- アンケート結果は3月の寺報にて

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕



●ご恩を偲び〔法事勤修〕 10月27日〜1月5日

●ありがとうございました〔永代経志納〕

尊い永代経志を賜りました。謹んで尊前にお供え申しあげます。

●お慶び申しあげます〔入仏式・遷仏式〕

お念仏熏る生活をどうぞ大切に。

●法要余香〔永代経法要〕 11月18日〜11月19日

【ご講師】安方哲爾師、【お供え(蜜柑)】白田憲光

専徳寺倶楽部：冬の集い 12月20日

庭木の剪定・溝掃除・煤払等、境内が大変美しくなりました。

【参加】秋嶋進一、浅井佐、上田浩之、小方基史、冲原政裕、岸井清市、吉柴伸一、木戸久夫、白井圭介、白田直則、白田憲光、中崎輝彦、中崎覚、半田正昭、廣田尚志、松重吉英、村上純一、村重親男、村中紀一郎、森上博之、森田幸一(21名)

